太宰府の文化財 398

原遺跡第27次調査

―山岳寺院「原山」本堂伝承地の確認調査―

平成29年9月から連歌屋、三条に広がる山岳寺院「原山」の本堂伝承地で、遺跡の内容を確認する調査を行いました。

山岳寺院「原山」は天台宗の寺院で、「原八坊」とも呼ばれ、時宗を開いた一遍や室町幕府を開いた足利尊氏が滞在した記録が残されています。近世に書かれた『円満山四王寺縁起』では、宝亀5（774）年に古代山城の大野城内に建立された四王院（寺）の別院として、天台宗の円珍の弟子が9世紀に建立したと伝えられています。

今回の調査では、2棟の建物跡と石組遺構、階段遺構、石列などを確認しました。

2棟の建物跡は13世紀代に建てられたもので、柱と柱の間の数が3間×3間（東西8m×南北12m）の建物跡1（図2、赤線の建物跡）と5間×3間（東西14・5m×南北11m）の建物跡2（礎石建物跡、図2、青線の建物跡）です。各建物跡の北側には、屋根から雨が落ちることでできる雨落溝が残っています。遺構の重なりから建物跡1から建物2へと建て替えられたと考えられます。その後、14世紀代になると建物は姿を消し、石組遺構（図2のピンク色の囲み、図3）が造られます。この石組遺構の上には昭和45年に発見された石塔（層塔）が建てられていたと考えられます。また、今回の調査地の東側において、平成27年度に確認した道から敷地内に入るための階段遺構（図2の緑色の囲み、図4）を確認しました。石列（図2のオレンジ色の囲み）は5石が残り、建物跡よりも古い時期の基段の一部と考えられます。

確認した2棟の建物跡は、これまで原遺跡で確認した建物跡よりも規模が大きく、調査地が「本堂跡」との伝承も残ることから、原山の本堂と考えられます。建物廃絶後には、この土地が本堂であったことを示す石塔（層塔）が建てられていたようです。また、階段遺構の確認により、道と本堂が一連の遺跡であることを確認しました。これらの遺構の確認は、山岳寺院「原山」の歴史を解明するうえで貴重な成果となりました。

文化財課　沖田正大

図１　調査位置図（赤丸が調査地点、上が北）

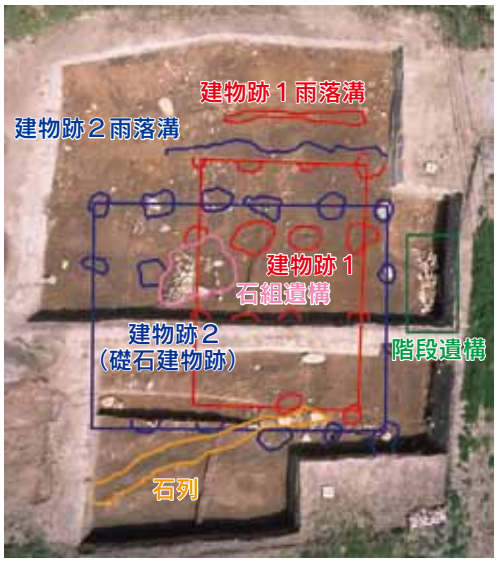

図２　調査区全景写真（上が北）

図３　石組遺構（北側から撮影）

図４　階段遺構（東側から撮影）

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198　太宰府市観世音寺一丁目1番1号
☎092(921)2121　FAX(921)1601　keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp
この広報誌は再生紙を利用しています。